

# 新事業 アイデア次々

## 南陽 受賞を契機に奮起

### 県民活躍大賞の中高生 ボランティア団体「にじ」

2022年度に、県内の社会貢献活動や地域活性化の取り組みを顕彰する「輝く県民活躍大賞」を受けた南陽市の中高校生ボランティアサークルにじが、受賞を契機に意欲的に活動している。8日には市健康長寿センターで本年度の初会合を開き、次々とオリジナル事業を立案し合い、23年度の事業計画を決めた。

意欲的に年間計画を決めた南陽市の中高校生ボランティアサークルにじのメンバー  
＝南陽市健康長寿センター



「にじ」は1999年に発足し、現在は市内在住の中高生と南陽高生26人で組織している。コロナ禍で活動が制限された中でも、

災害時を想定した非常食の調理実習、コロナ収束後の普及を見据えたSDGs（持続可能な開発目標）の視点を取り入れたりサ

イクル小物作りにも挑戦した。「輝く県民活躍大賞」の受賞は、継続した取り組みで地域貢献してきたことや

コロナ禍でも工夫を凝らして活動している点が評価された。初会合には、市内中学校の入学式と重なったため、

高校生5人が出席。▽子ども向けの駄菓子屋学校開催▽ごみ拾い▽高齢者に向けた年賀状書き▽小学生ボランティアとの交流▽マスクケース作り▽高齢者宅の除雪▽車いす清掃―など、初企画も含めたアイデアを次々と出し合った。

また、本年度は初めて、小学生を対象とした市の体験交流講座「きらきら・EKUBOキッズ」の手伝いも行うことになった。新会長には、置賜農高3年の長倉尊さん(17)＝同市赤湯＝が就任し、出席者を前に「受賞によって地域の注目も高まっていると思うが、意識せずにこれまで通りの活動を胸を張って頑張っていこう。多くの人と触れ合いながら、実りある活動にしていきたい」と意気込みを語った。

(黒沢光高)